

# 四半期報告書

(第14期第2四半期)

トレンドーズ株式会社



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営上の重要な契約等】 .....	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	9
第4 【経理の状況】 .....	10
1 【四半期財務諸表】 .....	11
2 【その他】 .....	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	18

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年11月14日

**【四半期会計期間】** 第14期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

**【会社名】** トレンダーズ株式会社

**【英訳名】** Trenderers, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 経沢 香保子  
(戸籍名：岡本 香保子)

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区東三丁目9番19号

**【電話番号】** 03-5774-8871(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 コーポレートDiv.担当 郭 翔愛

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区東三丁目9番19号

**【電話番号】** 03-5774-8871(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 コーポレートDiv.担当 郭 翔愛

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期累計期間	第14期 第2四半期累計期間	第13期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	803,178	736,465	1,616,490
経常利益 (千円)	192,066	7,182	395,498
四半期(当期)純利益 (千円)	117,407	1,604	248,948
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	196,000	516,788	512,710
発行済株式総数 (株)	1,387,500	3,364,800	3,315,000
純資産額 (千円)	698,720	1,473,443	1,463,681
総資産額 (千円)	953,420	1,690,939	1,771,313
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	42.31	0.48	82.46
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	0.41	69.01
1株当たり配当額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	73.3	87.1	82.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	24,689	△28,440	155,046
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△9,333	△31,698	△28,386
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△13,005	8,157	612,067
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	497,815	1,182,210	1,234,192

回次	第13期 第2四半期会計期間	第14期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	16.39	0.46

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 第13期第2四半期累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は第13期第2四半期までは非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
5. 平成24年6月15日付で普通株式1株につき300株の割合で、平成25年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第13期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

なお、当社は、当第2四半期会計期間末日後の平成25年11月1日開催の取締役会において、株式会社H&BCの全株式を取得し、子会社化することについて決議を行い、同日付で株式譲渡契約を締結し、全株式を取得しております。詳細は、「第4 経理の状況」「1 四半期財務諸表」「注記事項」（重要な後発事象）に記載のとおりであります。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、円安基調への転換及び株価の回復に伴い、景気は緩やかに回復しつつあるものの、新興国経済の下振れが懸念され、依然として景気の先行きは予断を許さない状況で推移いたしました。

当社は「ソーシャルメディアマーケティングのオールラウンドカンパニー」を目指し、新サービスの開発に注力するほか、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社と提携し「Tプレゼント×Amaze」サービスを開始いたしました。既存サービスの受注が伸び悩みました。また、人件費の増加により利益率が低下いたしました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は736,465千円（前年同期比8.3%減）、営業利益は6,579千円（前年同期比96.7%減）、経常利益は7,182千円（前年同期比96.3%減）、四半期純利益は1,604千円（前年同期比98.6%減）となりました。

各セグメントの業績については、次の通りであります。

#### ① ソーシャルメディアマーケティング事業

当セグメントにおきましては、不正業者によるステマ問題に起因するブログサービスの一時的な不振、及び新サービス開発への人員配置強化に伴う人件費率の悪化等により、売上高、営業利益ともに減少いたしました。インターネット広告においては顧客企業から費用対効果を強く求められるため、これに対応できる新商品の早期立ち上げに注力いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は710,611千円（前年同期比9.9%減）、セグメント利益（営業利益）は163,444千円（前年同期比53.7%減）となりました。

#### ② メディア事業

当セグメントにおきましては、美容医療ポータルサイト「キレナビ」におけるドクターコスメ



(美容クリニックのオリジナル化粧品)の販売が堅調に推移いたしました。施術クーポンを販売する美容医療については、美容医療についての啓蒙活動、サイトの利便性向上及びプロモーションに引き続き取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は25,853千円(前年同期比76.6%増)、セグメント損失(営業損失)は14,821千円(前年同期はセグメント損失(営業損失)19,300千円)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は1,182,210千円と前事業年度末と比べ51,982千円(4.2%)の減少となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動により使用した資金は、28,440千円(前年同期は24,689千円の収入)となりました。これは、主に税引前四半期純利益が7,182千円及び売上債権の減少が57,872千円であった一方、法人税等の支払額が86,738千円となったことによるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動により使用した資金は、31,698千円(前年同期は9,333千円の支出)となりました。これは、無形固定資産の取得による支出28,807千円、及び有形固定資産の取得による支出2,890千円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動により得られた資金は、8,157千円(前年同期は13,005千円の支出)となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行による収入8,157千円によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,364,800	3,364,800	東京証券取引所 (マザーズ)	1単元の株式数は100株 であります。完全議決権 株式であり、権利内容に 何ら限定のない当社の標 準となる株式でありま す。
計	3,364,800	3,364,800	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日(注)	5,400	3,364,800	450	516,788	450	495,788

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

## (6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
経沢 香保子 (戸籍名：岡本 香保子)	東京都港区	907,000	26.96
岡本 伊久男	東京都港区	670,600	19.93
(株)サイバーエージェント	東京都渋谷区道玄坂1-12-1	227,200	6.75
松本 洋介	東京都港区	144,000	4.28
RIP2号R&D投資組合	東京都中央区銀座8-4-17	116,800	3.47
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	108,100	3.21
小野寺 里子	大阪府高槻市	79,200	2.35
郭 翔愛	東京都目黒区	48,000	1.43
大西 香織	神奈川県鎌倉市	36,000	1.07
黒川 涼子 (戸籍名：佐々井 涼子)	東京都品川区	30,000	0.89
(株)スーパーソフトウェア	大阪市北区中之島3-2-4	30,000	0.89
計	—	2,396,900	71.23

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,363,500	33,635	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。
単元未満株式	1,300	—	—
発行済株式総数	3,364,800	—	—
総株主の議決権	—	33,635	—

## ② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,234,192	1,182,210
受取手形及び売掛金	379,723	321,851
仕掛品	6,853	21,155
貯蔵品	538	68
その他	21,196	15,482
貸倒引当金	△2,072	△1,556
流動資産合計	1,640,431	1,539,211
固定資産		
有形固定資産	25,277	25,512
無形固定資産	49,557	70,875
投資その他の資産	56,048	55,339
固定資産合計	130,882	151,728
資産合計	1,771,313	1,690,939
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	80,390	89,771
未払金	18,579	23,116
未払費用	54,719	40,750
未払法人税等	90,819	3,265
未払消費税等	19,473	3,729
預り金	18,597	21,830
ポイント引当金	5,169	14,737
その他	4,174	4,440
流動負債合計	291,923	201,641
固定負債		
資産除去債務	15,708	15,855
固定負債合計	15,708	15,855
負債合計	307,632	217,496
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	512,710	516,788
資本剰余金	491,710	495,788
利益剰余金	459,261	460,866
株主資本合計	1,463,681	1,473,443
純資産合計	1,463,681	1,473,443
負債純資産合計	1,771,313	1,690,939

(2) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	803,178	736,465
売上原価	342,869	418,637
売上総利益	460,308	317,827
販売費及び一般管理費	263,206	311,247
営業利益	197,102	6,579
営業外収益		
貸倒引当金戻入益	—	516
ポイント引当金戻入益	1,587	—
その他	122	477
営業外収益合計	1,710	993
営業外費用		
支払利息	599	390
上場関連費用	6,145	—
営業外費用合計	6,745	390
経常利益	192,066	7,182
税引前四半期純利益	192,066	7,182
法人税、住民税及び事業税	70,536	1,145
法人税等調整額	4,122	4,432
法人税等合計	74,659	5,577
四半期純利益	117,407	1,604



## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月 30 日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	192,066	7,182
減価償却費	5,225	8,238
のれん償却額	1,952	1,952
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	201	△516
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△1,587	9,568
受取利息	△0	△0
支払利息	599	390
上場関連費用	6,145	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△60,437	57,872
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,446	△14,302
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,585	9,380
未払金の増減額 (△は減少)	△13,798	2,675
未払費用の増減額 (△は減少)	795	△13,968
預り金の増減額 (△は減少)	6,434	3,233
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△4,737	△15,743
その他	235	2,725
小計	131,956	58,687
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△599	△390
法人税等の支払額	△106,666	△86,738
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,689	△28,440
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,252	△2,890
無形固定資産の取得による支出	△7,034	△28,807
資産除去債務の履行による支出	△1,096	—
敷金の回収による収入	1,050	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,333	△31,698
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△13,005	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	8,157
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,005	8,157
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,351	△51,982
現金及び現金同等物の期首残高	495,464	1,234,192
現金及び現金同等物の四半期末残高	497,815	1,182,210

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
給料手当	88,821千円	107,516千円
貸倒引当金繰入額	201千円	—
ポイント引当金繰入額	—	3,528千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金	497,815千円	1,182,210千円
現金及び現金同等物	497,815千円	1,182,210千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ソーシャルメディアマーケティング事業	メディア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	788,542	14,636	803,178	—	803,178
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	788,542	14,636	803,178	—	803,178
セグメント利益又は損失(△)	353,035	△19,300	333,734	△136,632	197,102

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△136,632千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ソーシャルメディアマーケティング事業	メディア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	710,611	25,853	736,465	—	736,465
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	710,611	25,853	736,465	—	736,465
セグメント利益又は損失(△)	163,444	△14,821	148,623	△142,043	6,579

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△142,043千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	42円31銭	48銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	117,407	1,604
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	117,407	1,604
普通株式の期中平均株式数(株)	2,775,000	3,350,879
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	538,532
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

- (注) 1. 当社は、平成24年6月15日付で普通株式1株につき普通株式300株の株式分割、平成25年1月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
2. 前第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は前第2四半期累計期間末においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

株式取得による会社の買収

当社は、平成25年11月1日開催の取締役会において、株式会社H&BCの全株式を取得し、子会社化することについて決議を行い、同日付で株式譲渡契約を締結し、全株式を取得しております。

(1) 株式取得の目的

株式会社H&BCは、大手流通向けの化粧品の製造販売・卸売事業を行っており、安定した顧客基盤を有しておりますが、当社の女性向けマーケティングノウハウを活かした新商品開発や販売促進等に取り組むことによって、両社の企業価値のさらなる向上と、当社グループにおける収益源の多様化・安定化にもつながるものと考え、今回の株式取得を決定いたしました。

(2) 株式取得の相手先の名称

上田博嗣

株式会社アールライブ

(3) 株式取得する会社の概要

- ① 名称 株式会社H&BC
- ② 所在地 東京都渋谷区神宮前四丁目19番6号
- ③ 代表者 上田博嗣
- ④ 事業内容 化粧品の企画、製造、販売及び輸出入等
- ⑤ 規模 (平成24年11月期)

資本金 10,000千円

売上高 438,323千円

(4) 株式取得の時期

平成25年11月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

- ① 取得する株式の数 200株
- ② 取得価額 30,000千円
- ③ 取得後の持分比率 100%

(6) 支払資金の調達方法

自己資金

(7) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間  
現時点では確定しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

トレンダーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 村 孝 郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 本 恭 仁 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトレンダーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第14期事業年度の第2四半期会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、トレンダーズ株式会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。





**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年11月14日

**【会社名】** トレンダーズ株式会社

**【英訳名】** Trenderers, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 経沢 香保子  
(戸籍名：岡本 香保子)

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区東三丁目9番19号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長経沢香保子（戸籍名：岡本香保子）は、当社の第14期第2四半期（自 平成 25年 7月1日 至 平成25年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。